

編集後記

「大学教育研究フォーラム第10号」をお届け致します。

1997年4月に全学共通カリキュラムが発足してから8年目を迎えた2004年度、全学共通カリキュラムの外部評価が実施されました。その目的は、より多面的かつ客観的な評価を得て、全カリ運営センターの自律的機能としての改善サイクルを確立するとともに、今後の全カリ改革に向けた具体的な実施案を策定するにあたって助言を得ることにありました。

本号では、その成果を共有するために「全学共通カリキュラム外部評価報告」を特集し、ご多忙のなか外部評価の任務をお引き受けいただいた委員の方々からのご寄稿もいただきました。このような外部評価の取り組みから析出された貴重な知見は、2006年度から全学的に施行される新しい教育体制のもとで、更に実態を伴って検証されていくことになるでしょう。その過程では、専門教育と教養教育の連携及び有機的統合という課題について、各学部の特徴を踏まえながら意識的に検証し、共有化していく作業が一層求められてくると思えます。そのためにも、一人一人の教員が、日常の教育のなかでも真摯に個々の学生に向き合い、その声を聴き取る行為がより一層重要なものとなっていくでしょう。

最後になりましたが、お忙しい中、本号にご協力をいただきました皆様に深く御礼申し上げます。

(湯澤 直美)